

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

## 昭和三十二年度法政大学日本文学科卒業論文 題目

(出版者 / Publisher)

法政大学国文学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

2

(開始ページ / Start Page)

75

(終了ページ / End Page)

78

(発行年 / Year)

1959-03-01

昭和三十三年度

法政大学日本文学卒業論文題目

古事記研究

浅利 富夫

的意義

小沢 正人

古事記神話における日本民族の

枕草子をとおして見た清少納言

平田 治夫

思想

庄崎 律子

の人間像

佐藤 貞夫

古事記に現れたる神の世界

永沼 幸穂

源氏物語の愛

西原 明

山上憶良論

富田 昌彦

紫式部日記論―紫式部の人間像

喜多 健

高市黒人とその作品

近藤 国之

小考―

徒然草と兼好法師

山上憶良論

北条 桂子

堤中納言物語の特色について

徒然草の「来意」の問題

上代文学の発生

桑原忠三郎

鴨長明の無常観についての一考

徒然草の人間観と社会的背景

万葉集に現われている植物と

桑原 孝雄

察―特に方丈記の後半を中心として―

兼好と徒然草

その食生活について

絹田 穰一

鴨長明私論―方丈記に見られる

徒然草の研究

東歌の方法

白藤 恒雄

閑居生活について―

狂言における女性についての考

竹取物語の虚構性と

丹羽 宗吉

方丈記雑感

能における古代と現代

民族的伝承性

西山 聡樹

源実朝―歌を通じての人間性

狂言における大名(小名)の一

竹取物語論―成立に関して

井上 育憲

武士の勃興と戦記文学

考察

物語の祖としての竹取物語

忍足 啓助

保元・平治物語の考察

狂言の室町時代にあたえた役割

竹取物語研究

小関 雅司

戦記文学の文学史に占める位置

―その発生と諷刺について―

竹取物語論

岡野 政男

平家物語の女性

大名狂言論

伊勢物語の成立過程と流布本の

組織内容について

平家物語

井原西鶴論―好色五人女にお

組織内容について

平家物語における貴族社会の崩

壊過程―平氏を中心として―

好色二代男

蜻蛉日記の一視点―その文学史

榑 吉雄

平家物語における女性像

荒井 義雄

平家物語における貴族的なもの

佐々布洋子

と武士的なもの

宅間 清子

平家物語と唱導文学

田中 増子

平家物語作者の方法

小河原久美子

平家物語における武人の様相と

田川 広

武人像

田中 淑子

平家物語の造型について

日向 徳成

道元の法語「典座教訓」の文学

伴場 範嘉

的考察の試み

真鍋 雅則

徒然草と兼好法師

鈴木 康之

徒然草の「来意」の問題

肥田木 穰

徒然草の人間観と社会的背景

村田美智子

兼好と徒然草

田中 弘一

徒然草の研究

林 大之

狂言における女性についての考

前沢 勝洋

能における古代と現代

小川 芳夫

考察

志田 文秀

狂言の室町時代にあたえた役割

荒井 義雄

―その発生と諷刺について―

志田 文秀

大名狂言論

志田 文秀

井原西鶴論―好色五人女にお

志田 文秀

ける女性像

志田 文秀

好色二代男

志田 文秀

西鶴の好色物における発展と女性像

性像

好色一代男の考察―主人公世之介を中心として―

好色一代男と新興町人階級

町人作家西鶴

貞享三年の西鶴

俳諧から浮世草子への展開

西鶴の町人物について

西鶴「好色五人女」について

俳諧から浮世草子への展開

西鶴と武家物

西鶴の方法―貞享三年「好色五人女」を中心に―

西鶴研究再検討

西鶴町人物について

「西鶴諸国咄」の説話性について

紀行文に現れた芭蕉の芸術―野ざらし紀行・笈の小文を通して

芭蕉小論―奥の細道のジャンルと詩精神

芭蕉の幽玄閑寂の詩境について

芭蕉「冬の日」成立論のための覚え書

芭蕉「冬の日」成立論のための覚え書

芭蕉「冬の日」成立論のための覚え書

芭蕉「冬の日」成立論のための覚え書

芭蕉「冬の日」成立論のための覚え書

芭蕉「冬の日」成立論のための覚え書

芭蕉「冬の日」成立論のための覚え書

芭蕉と奥の細道

川上 哲吉

歌舞伎と浄瑠璃考―近松の伝統と創造について―

渡辺 基也

近松時代浄瑠璃の思想的考察

加藤 正喜

時代浄瑠璃序説近松における

吉谷 公夫

世話悲劇、時代浄瑠璃併存の意味―

築取 秀夫

出世景清について

高野 貴

「曾根崎心中」と「心中天の網島」の研究

菊地 淳一

世話悲劇の成立「曾根崎心中」について

橘川 郁夫

近松門左衛門の作品と悲劇心中物について

加藤 雅俊

歌舞伎、浄瑠璃の研究

金岩 勇夫

近松の世話物における悲劇の展開

大蔵 周

近松世話浄瑠璃における心中悲劇の考察

芹沢 満

近世悲劇に関する一考察(その成立迄)

藤原 澄雄

近松の研究

斎藤 陽子

近松の研究

小林 京子

近松の研究

中村 俊夫

近松の研究

森元 金竜

新演劇への方法

新海 千治

歌舞伎舞踊について

町人文学としての古川柳の時代

町人文学としての古川柳の時代

町人文学としての古川柳の時代

町人文学としての古川柳の時代

町人文学としての古川柳の時代

町人文学としての古川柳の時代

松下 民男

井上 弘夫

梶谷 弘道

荻野 秀峰

関谷 弘

山崎 正詳

斎藤 三郎

浅野 徹男

川村 末広

長谷川克己

宍戸 孝章

笹田 英明

栗原 功

大石 佳司

加藤 則

中島 光一

的位置づけ

野村望東尼

雨月物語における道義心(義理)の問題

近松半二作品研究

春雨物語の考察

山東京伝論

「東海道中膝栗毛」における滑稽味の研究

戯作文学における笑いについて

壮士芝居発生の基盤―明治二十年前後における―

文学作品に現れた国語接続詞―室町から近代にいたる―

二葉亭四迷論

初期浪漫主義と北村透谷

北村透谷について

南北と黙阿弥

一葉の諸作品をつらぬく庶民性について

樋口一葉

樋口一葉について

国木田独歩論

国木田独歩論

国木田独歩論

国木田独歩論

国木田独歩論

国木田独歩論

国木田独歩論

国木田独歩論

矢野 公英

重枝 一男

三浦 宝悦

山下 良昭

東 喜望

半沢 岩雄

吉田 元之

日向野克己

山田 六郎

野村 高介

高岡 明

青木 美恵

松井 時哉

長崎 明

田川 春雄

飯塚 信治

国吉 修

井上 博恭

鮫島 平

の生涯！

国木田独歩小論

広田 格

漱石のリアリズムの問題について

志賀直哉作品論「山科の記憶」と「邦子」

小林 雅男

国木田独歩作品論

江井 徳重

「それから」について

鈴木 哲雄

有島武郎小説論

徳永 桂吾

国木田独歩

沢山 修己

漱石のユーモアについて

野村 民子

有島武郎論

徳永 憲一

田山花袋論

永井 時彦

夏目漱石

三浦 忠

「或る女」研究

川崎 昌子

蒲団考

星野 勝美

漱石の作品と私―「彼岸過迄」

浅野不二夫

有島武郎の思想と作品

高木恵美子

島崎藤村―「破戒」から「家」

繩野 功

漱石の「彼岸過迄」「行人」

戸田 宏

芥川之介の悲劇について

長谷川光男

までの家族制度と自己解放

三原 茂

「心」についての考察

武田 優一

芥川竜之介論芥川の一側面について

丹野 昭十

藤村と「嵐」について

童野 舜治

小川未明の童話の教育的価値について

角田ひとみ

菊地寛のリアリズムと初期の作品

半沢 宏明

石川啄木の小説と評論について

大西 泰雄

晩年の夏目漱石

鶴羽 良輔

「三四郎」研究―美禰子に関する一考察

竹内 勇真

従来の啄木論について

小林 清三

未明童話をめぐって

西村 操

「三四郎」研究―美禰子に関する一考察

原 郁夫

私小説作家研究序説

服部 明美

新浪漫主義作家としての三重吉

品

宮本百合子「播州平野」をめぐる問題

田村 正治

牧野信一論―その生涯と作品

梅宮 真蔵

文学的変遷を経て「桑の実」に到達する迄―

角木セツ子

宮本百合子「伸子」について

川上 裕

嘉村磯多の特異性について

小畑田和兵

長塚節の農民短歌と農民小説

松本 博

宮本百合子「伸子」について

原 郁夫

自然主義文学における正宗白鳥の位置

三木 靖子

永井荷風論及び作品研究

市川 弘

婦人解放の文学としての「伸子」

川上 裕

夏目漱石と「行人」における

井上 弘夫

直哉の人間性

藤本 武志

プロレタリア文学運動の推移と

古川 理

「お直」について

山崎 一治

志賀直哉「山科もの」における

三浦 浩

「蟹工船」

林 博

「三四郎」論

渡辺 昌子

志賀直哉「自我」

和田 正

小林多喜二の作品分析及び批判

関谷 孝

人間漱石

齋藤 祐三

「暗夜行路」における時任謙作と作者志賀直哉

小杉きよ子

小林多喜二の文学の成立過程に

海藤 栄治

夏目漱石「草枕」についての作

山口 彰一

「自我」

和正

小林多喜二の作品分析及び批判

海藤 栄治

品論

齋藤 祐三

「暗夜行路」における時任謙作と作者志賀直哉

和正

小林多喜二の作品分析及び批判

海藤 栄治

夏目漱石論―抗夫を中心に

山口 彰一

「暗夜行路」における時任謙作と作者志賀直哉

和正

小林多喜二の作品分析及び批判

海藤 栄治

明暗論及び則天去私について

山口 彰一

「暗夜行路」における時任謙作と作者志賀直哉

和正

小林多喜二の作品分析及び批判

海藤 栄治

おける婦人解放運動の問題	石田 新昌	宇野浩二小論	藤木 誠
小林多喜二の思想と文学	柴田 忠彦	伊藤整論―作品に現れた生き方	
堀辰雄論	鳥羽 順	とその考え方―	小林 満
「風立ちぬ」の周辺	早見 静雄	井伏鱒二論	市川 清
堀辰雄論	南 洋一郎	石坂洋次郎の作品と私	宮路 貞雄
横光利一「旅愁」について	浦島繁太郎	現代俳句の内部反省	奥村 雅信
横光利一論―横光文学の眼の作	阿部 幸子	通俗文学について	渡辺宏太郎
用について!	堀田 千輔	田宮虎彦論―私小説克服とその	
林芙美子論	安藤 堅次	限界	岩切 道雄
中島敦研究	加藤 秀昭	文学とマスコミュニケーション	三浦 和也
豊島与志雄の小説	鍋田 綾子	大衆文学に現れたニヒリスト	
立原道造試論	大平 幸子	像―文学の「受け手」を中	小野 芳江
小説を通しての岡本かの子論	青木 君江	心が―	
岡本かの子論	谷地 善也	わが郷土方言の考察とその	原 悦男
太宰治の初期の作品とコミニズ	伊藤 健字	特異性	
ムの関連について	響	近代文学の日本舞踊に及ぼす影	稲岡 孝
太宰治論	堀辰雄論―作品展開の一断面		岩城 祐男
いて	木村 精一	隠岐島方言の研究	村尾 昌信
田中英光論	山田 洋二		
田中英光論	花村 国弘		
山本有三の作品に現れたる人生	山口 督		
観	野村 誠一		
阿部知二論	奥田 昌慶		
石川淳論			